

令和7年度全国学力・学習状況調査結果について

みだしのことについて、本市全体の状況については、下記のとおりです。

なお、本年度は小学校3教科、中学校3教科（小中…国語、小中…算数・数学 小中…理科）の調査を実施しました。

記

1 本年度の各教科平均正答率

		国語	算数・数学	理科
小学校	本市	66	55	56
	三重県	66	57	56
	全国（公立）	66.8	58.0	57.1
中学校	本市	54	49	500
	三重県	53	47	498
	全国（公立）	54.3	48.3	503

※中学校理科はIRTスコアで示されています。

※ 文部科学省は、微小な差異は点数的に学力の違いを示すものではないことから、平成29年度より小数点以下は四捨五入し整数で示しています。

- ・ 小学校は国語、理科において、共に三重県と同等、全国は下回る結果でした。算数は三重県・全国を下回る結果でした。
- ・ 中学校は国語が三重県を上回り、全国と同等の結果でした。数学は三重県・全国を上回る結果でした。

※ 理科のIRTとは、国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。IRTスコアはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 本市の小中学校の状況

		強み	弱み
小学校	国語	自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること	目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つけること
	算数	異分母の分数の加法の計算をすること	異分母の分数の加法について、共通する単位分数に着目して、計算の仕方について考察し、表現すること
	理科	ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身についていること	身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身についていること
中学校	国語	目的に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすること	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること
	数学	必ず起こる事柄の確率について理解していることや、事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ること	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見いだし、数学的な表現を用いて説明すること
	理科	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いていること	身の回りの事象から生じた疑問や見いだした問題を解決するための課題を設定すること

3 今後の方針

- ・ 今回の調査結果の詳細な分析を行い、本調査問題の趣旨等を踏まえた具体的な授業改善の視点を提案します。さらに、各学校において自校の分析結果公表を指示し、特に課題が見られた学校には、適切に指導・助言を行い、学校と連携して学力向上に取り組めます。
- ・ 子どもたちの主体性を引き出す授業方法である「自己選択学習」を推進し、子どもの学習に向かう力の育成を図ります。
- ・ 家庭への啓発を図るとともに、デジタル学習教材やＩＣＴの効果的な活用を推進することにより、家庭学習と授業との連携を行い、学力の定着を図ります。

【事務担当 教育委員会教育推進課 電話３５４－８２５５】